

令和3年司法試験の採点結果を受けて

2021年9月7日

1 今年の合格者・合格率等

本日、法務省大臣官房人事課より、令和3年司法試験の採点結果が発表されました。

令和3年司法試験の合格者数は1,421人（令和2年は1,450人、令和元年は1,502人）となりました。受験者数は3,424人（令和2年は3,703人、令和元年は4,466人）、短答式試験の合格に必要な成績を得た者の数は2,672人（令和2年は2,793人、令和元年は3,287人）でした。そのため、合格率は、受験者数ベースで見ると約41.5%（令和2年は約39.2%、令和元年は約33.6%）、短答式試験合格者数ベースで見ると約53.1%（令和2年は約51.9%、令和元年は約45.7%）と、（新）司法試験初期の頃と同程度に高い合格率となっています。

2016年以降、合格者数は約1,500人ベースを維持していますが、受験者数は減少の一途をたどっています。令和元年から令和2年にかけては、コロナ禍という状況もあいまって、受験者数が763人減少し、その減少率も約17%と大幅に上昇しました。今年の受験者数は、昨年比で279人の減少にとどまり、減少率も約7.6%にとどまりましたが、依然として、受験者数の減少傾向には歯止めがかかっていない状態です。

このような傾向が続く中でも、今年の合格者数は、2年連続で1,500人を割りはしたものの、概ね約1,500人ベースを維持する形となりました。これは、2015年6月に法曹養成制度改革推進会議が打ち出した「合格者は年間1,500人程度」という方針を重視しているものと考えられます。

もっとも、法曹養成制度改革推進会議は、「合格者は年間1,500人程度」という方針は「輩出される法曹の質の確保」を考慮せずに達成されるべきものではないとしています。そのため、来年度以降も受験者数が減少する中で、合格者数が約1,500人ベースを維持する形になるかどうかは未知数というほかありません。合格者数を増やすべきとの声もありますが、少なくとも受験者数が増加することは見込めない状況下では、合格者数も現状維持または微減するというのが現実的なのところなのではないでしょうか。

2 合格点について

令和3年の合格点は、総合評価の総合点755点以上（令和2年は780点以上、令和元年は810点以上、平成30年は805点以上、平成29年は800点以上）となりました。平成29年から毎年5点ずつ上昇していましたが、令和2年は令和元年から一気に30点も下がり、今年も昨年比で25点も下がりました。データ上では、令和2年以前の直近4年間の問題を解いた各受験生と比較すると、今年の問題を解いた受験生が最も得点できなかったことを示す形となっており、相対的に、今年の問題がここ5年間で最も難易度が高かったものと推測できます。

3 合格者の構成

合格者の平均年齢は 28.3 歳（令和 2 年は 28.4 歳，令和元年は 28.9 歳）となりました。

法科大学院等別合格者数構成でみると，まず，予備試験合格者が 400 人受験して 374 人合格しました（合格率 93.5% 昨年比↑4.2%）。

また，上位の法科大学院別の合格者数構成は，以下のとおりです。

京都大学法科大学院：受験者数 185 人，合格者数 114 人

（合格率 61.6% 昨年比↑3.8%）

一橋大学法科大学院：受験者数 110 人，合格者数 64 人

（合格率 58.1% 昨年比↓12.4%）

慶應義塾大学法科大学院：受験者数 227 人，合格者数 125 人

（合格率 55.0% 昨年比↑5.2%）

早稲田大学法科大学院：受験者数 231 人，合格者数 115 人

（合格率 49.7% 昨年比↑13.7%）

東京大学法科大学院：受験者数 199 人，合格者数 96 人

（合格率 48.2% 昨年比↓11.2%）

中央大学法科大学院：受験者数 261 人，合格者数 83 人

（合格率 31.8% 昨年比↑2.4%）

このように，上位の法科大学院の合格率に比して，予備試験合格者の合格率の高さは圧倒的です。

予備試験合格の事実が大手法律事務所，外資系法律事務所等の就職活動において極めて大きな威力を発揮することも併せて考えると，大学在学中の皆さんに限らず，法科大学院在学中の皆さんも，予備試験合格を目指し，これを突破して司法試験に最終合格することができれば，将来の選択肢も大いに増えるのではないかと思います。

4 総評

合格率は上昇の一途をたどっています。短答式試験の合格者数ベースでは，平成 28 年の合格率は約 34.3%であったのに対し，平成 30 年では約 41.6%と 40%台に到達し，令和 2 年では約 51.9%と 50%台に到達しました。今年の合格率も約 53.1%と高水準を維持しています。来年度以降も受験者数に大きな変動がなければ，司法試験は，受験者数ベースでは約 3 人に 1 人が突破でき，短答式試験に合格できる実力を持っていれば，そのうち約 2 人に 1 人が突破できることとなります。

このように，司法試験の合格率だけに着目すれば，司法試験はもはや「難関試験」ではないと錯覚してしまいそうですが，紛れもなく，司法試験（特に論文式試験）は「難関試験」です。気が遠くなるほどの学習を日々積み重ねてインプットの量・質を確保しつつ，アウトプットの訓練を何度も繰り返し，第三者による客観的なフィードバックを

受けるというプロセスを経なければ、合格することは困難でしょう。たとえば、漫然とインプットだけを重ねる学習や、客観的なフィードバックを受けないアウトプットの訓練を繰り返すだけでは、合格することは難しいといえます。

そこで、合格に直結する効率的な学習が必要不可欠です。予備校を上手に活用し、効果的な受験対策を行うことで、合格できる確率を大幅に上昇させることができるでしょう。司法試験に最終合格し、皆さんの日々の努力が結ばれることを心からお祈り申し上げます。

以 上